

**MEIWA FARM
HYBRID**



ICTを活用した「スマート農業」で 次世代農業を創造するカーボンニュートラルファーム。

日本の食物は「安心」「安全」は「あたりまえ」。そして、とても美味しいにも関わらず、食物自給率(カロリーベース)は低水準で推移し、就農人口はここ20年で半分以下に減少。

私たちはいずれ国産の食物を口にできなくなる日がくるのではと危惧する思いもあり、一次産業への参入を決意、企業誘致で縁ができた鳥取県に「農業法人株式会社メイワファーム HYBRID」を設立しました。

今後も「あたりまえ」を「あたりまえ」に続けていくため、美味しい食物をお届けするのはもちろん、新規就農者の支援や雇用による地域活性化などに取組み、社会に貢献したいと考えます。

<https://mhy.mpx-group.jp>



本 社 〒680-0904 鳥取県鳥取市晩稻307番地
ファーム 〒689-0426 鳥取県鳥取市鹿野町寺内33 MHY鹿野ハウス
TEL:050-3821-6929

会社概要

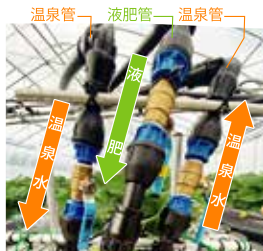
社名	株式会社メイワファーム HYBRID	設立	2020年4月
代表取締役	CEO 増田 淳	事業概要	農産物の生産、加工、販売
	CSO 早川 晋		農業研修事業、六次化産業事業
	CTO 米澤 隆嗣	資本金	1,000万円



ファーム紹介

[温泉熱を利用した栽培]

株元に温湯管を通し、培地を直接温めることで成長を促します。温めるための熱源に温泉水を活用することで土壌も温かくなり、ボイラーなどでハウス全体を温める必要がなくなり、環境負荷の低減にも寄与しています。



◀液肥管と温泉管の送水システム

◀各栽培ベッドへ

[スライドらくラック]

全長39mの栽培ベッドは手で動かすことができる移動式栽培ベッド「スライドらくラック」を導入。これにより作業通路は一列で済み栽培スペースを広くとれるため、ハウス面積当たりのイチゴ栽培株数を増やすことができ、従来に比べ収量が最大1.8倍増加し、施設の有効利用にも役立っています。さらに「局所加温技術」を備えており、外気温に影響されず常に適温を保つので、安定した収量を実現しています。

従来式栽培方式



移動式栽培ベッド



[スマート農業とSDGs]

ICTなどの先端技術を活用することで気温、土壌土土・湿度、二酸化炭素濃度、日照量、風量を24時間完全モニタリング。風量と気温との連動による側面換気窓の自動開閉システムをはじめ、リモートカメラによるハウス内の確認、自動灌水制御システムによるさまざまな環境への対応。これらすべてスマートフォンやタブレットで制御が可能で生産性を維持しつつ、農業における省力・軽労化を進め、さらに再生可能エネルギーの利用と二酸化炭素排出量実質ゼロの取り組みで環境保全に役立つ農業の実現に取り組んでいます。



スマホによるリモートカメラ操作とハウス内の確認



システム制御で24時間完全モニタリング

販売ブランド



温泉熱を利用し栽培した「温泉いちご」を贅沢に使った六次化商品。

[温泉いちごミルクのもと]

温泉いちごをいつでも美味しく楽しく味わっていたけりよう果肉を贅沢に入れました。作り方はカンタン。本品にミルクはもちろん、炭酸水やビールなどを1:1で割るだけ。フルーティーな香りとともに甘みと酸味、いちごの果肉感をたっぷり感じていただけます。お子さまから大人の方まで楽しんでいただけます。



※アルコールは入っておりません。

メイワファームHYBRIDの最新情報や各商品詳細は各サイトに於て発信しています。

